

宮崎ワシントンニアパーク維持管理検討会 【参考資料】

平成28年4月26日

第2回 宮崎ワシントンニアパーム維持管理検討会 議事要旨 平成28年2月4日(木)13:30~15:30

1. 更新(植替え)の目的について

- ・更新の必要性、検討会の目的について事務局案で了承する。

2. 更新(植替え)計画の基本的考え方について

- ・更新計画の基本的考え方について事務局案で了承する。

3. 更新(植替え)パターンについて

○更新パターンの基本的考え方と検討フロー

- ・更新パターンの基本的考え方と検討フローについて事務局案で了承する。

○周辺景観を考慮した区間の区分

- ・周辺景観を考慮した区間区分について、7区間に区分する事務局案で了承する。

○I期更新区間の特徴と更新パターンの検討

- ・I期更新区間は「区間1(一の鳥居~デパート前)」としてよい。
- ・初回更新の着手箇所について、次回以降の検討会にて事務局案を提示すること。
- ・初回更新箇所では、社会実験的な取り組みをすべき(2パターンの試験施工)。
- ・生態面の更新時期は植栽後65年(樹齢80年)である。一方、1本置きのパターンの2巡目更新は現在より30年後で、概ね植栽後80年(樹齢95年)の更新となっており、更新時期を超過している。
- ・樹齢を考慮すると、更新サイクルを短くすべき。

○アンケートに係わる検討

〈アンケートの実施方針〉

- ・小さな紙面の写真ではパターンの違いが伝わりにくい。置き式の場合は補足説明等ができないため、モニターによる映像放映等で分かりやすくすることが必要。
- ・正確なアンケート結果を得るには、分かりやすいアンケートをつくる、もしくは、しっかりと説明する機会を設けるという配慮が必要。
- ・観光客等の県外の意見もあれば検討の参考情報として有効である。空港での聞き取りを検討してはどうか。
- ・毎年4/29に橋通りで実施している「ストリート音楽祭」というイベントの前で、説明しながらアンケートをとることも検討してはどうか。

〈アンケートの内容〉

- ・各案の特徴にコストや管理・更新の手間を追加すべき。
- ・検討会の中では複数の観点の話されており、それを全て並列で提示しても市民は受け止められない。そのため、アンケートの主旨を絞る必要がある。
- ・パターン検討は景観面を重視すべきであり、作業性とコストの差については、景観面を覆すほどの要素ではない。
- ・各更新パターンの特徴の説明文に解釈を付け加えないと、市民は判断できない。
- ・良し悪しを聞くのは評価としておかしい。違和感の方が回答しやすい。
- ・A案とB案の比較は、同年次のCGを並べて見比べるべきである。
- ・アンケート用紙は、できる限り回答のつけ間違いをなくすような工夫が必要。
- ・アンケート用紙のCG写真に表示している「更新木」等の表示は風景の邪魔にならないように配置すること。

○土壌改良範囲の検証

- ・土壌改良範囲の検証について事務局案で了承する。

4. 苗木の調達方法について

- ・圃場育苗は、地元小学校等との連携による取り組みも検討すべきである。
- ・堀切峠に圃場を作るのであれば、宮崎の名勝維持のため、パーム畑の印象を和らげるよう圃場の脇にヤマザクラの植栽を検討してほしい。

5. 樹種に関する意見

- ・ワシントンニアパーム以外の植え替え樹種の検討も必要。場所に依じて他の樹種も含めた検討をすべき。
- ・単一の樹種が連続植栽されていることが、沿道景観を特徴的にしている。植栽樹種はワシントンニアパームにこだわることも必要。

以上

【参考資料②】宮崎で見られるヤシ類

ワシントニアパーム



シンノウヤシ



ソテツジュロ



チャボトウジュロ



ミキナシサバル



クロツグ



フェニックス(カナリーヤシ)



ナツメヤシ



ワシントンパーム

※比較のため再掲



ジョウヤシ



ユスラヤシ



アメリカサバル



イワソテツジュロ



ブラジルヤシ



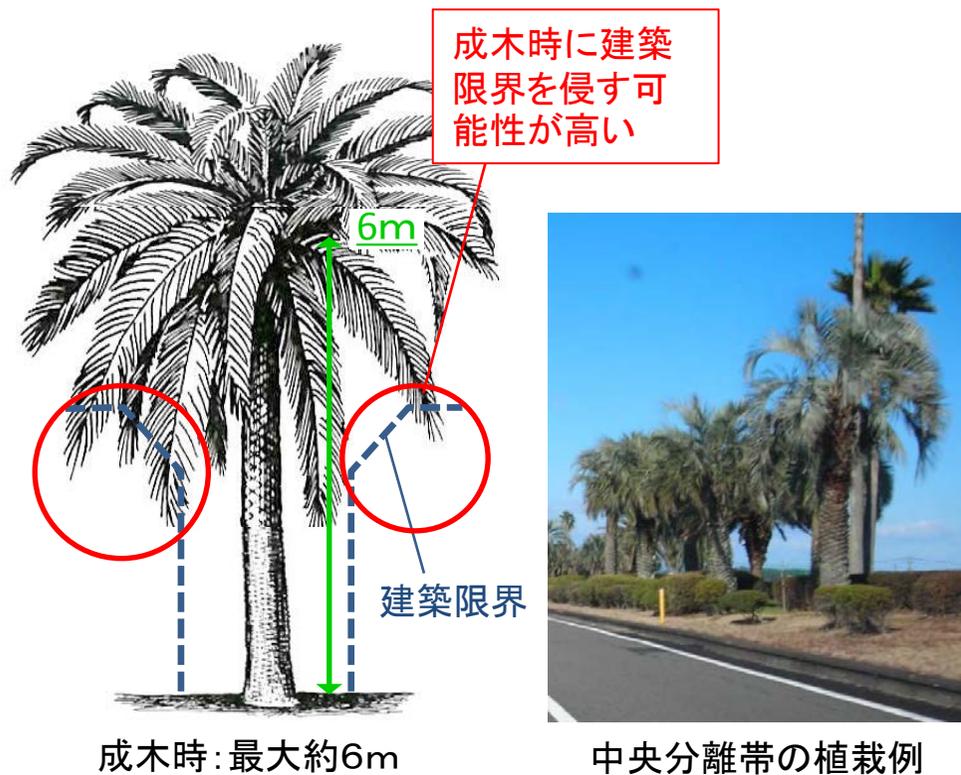
テキサスサバル



ビロウ

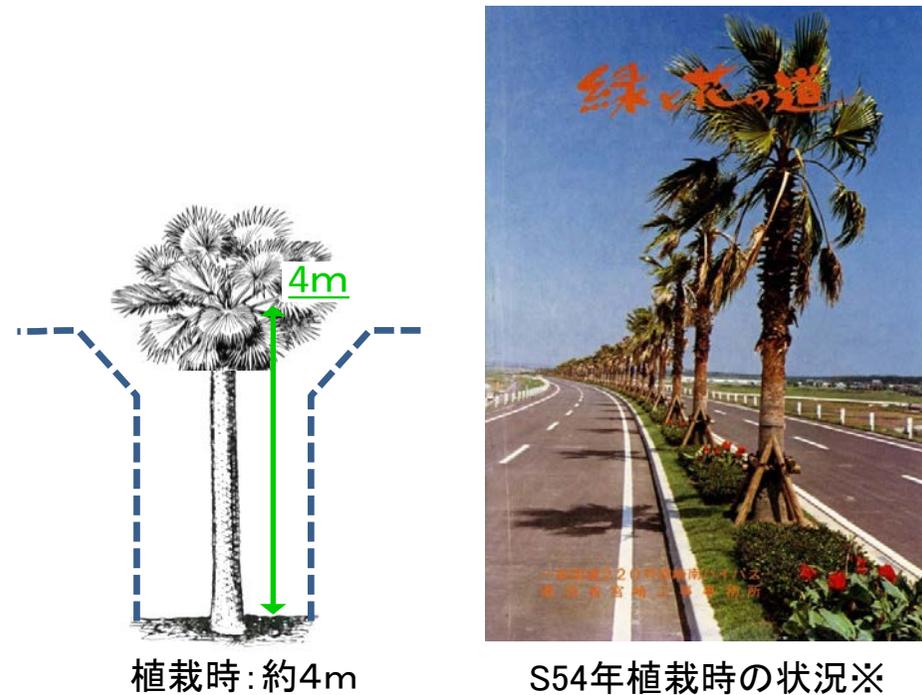


【羽状葉で成木時の樹高が低いヤシ】
イワソテツジュロ、ブラジルヤシ等



樹高が6m程度と高ならず、羽状葉で葉が横に伸びて垂れ下がりやすいため、成木時に建築限界を侵す可能性が極めて高い。

【掌状葉のヤシ】
ワシントンニアパーム等



葉が垂れ下がりにくいため、植栽時から建築限界を確保できる。

※緑と花の道：建設省宮崎工事事務所

【参考資料④】中央分離帯におけるワシントンニアパーム以外の植栽例



ソテツ

(区間4: 中村交差点～上恒久交差点)



フェニックス、ブラジルヤシ

(区間6: 本郷ランプ～県道中村木崎線)

※中央分離帯が広い区間

(1) 計画的な更新の必要性について

①安全管理面

- ・枯れ枝等の落下事故防止の為、高所作業車による対策を定期的を実施。高所作業車が1車線の規制幅の中で剪定作業可能な高さは32mまで。
- ・現在の樹高は最も高いもので21.3m。ワシントニアパームの成長が進むにつれ、作業の困難さが増大。

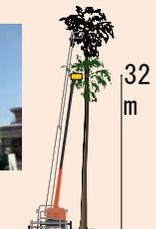


フロントガラスが損傷

枯れ枝の落下による通行車両への損傷の例



枯れ枝落下防止作業の状況(1車線規制で32mまで)



(樹高32m—植栽時4m)
 ÷年最大成長量0.4m
 ≒植栽後 **およそ70年**が限界

②生態面

- ・ワシントニアパームの寿命は60年～100年と幅広く、**枯れて倒れる前の更新**を考え、**約80年を限界**の樹齢と想定。植栽時の樹齢が約15年のため、植栽後、約65年が限界(樹齢)と想定。
- ・古いものはS42頃に植栽され、植栽後約50年が経過。(196本)。このままにしておくとも一斉に寿命を迎える。

※専門書ではワシントニアパームの寿命は不明で、類似樹種のおキナヤシの寿命は60年と記載。樹齢100年(樹高約35m)になった事例もある。



立ち枯れの例



台風による倒木の例

植栽後 **およそ65年**が限界

③景観面

- ・ワシントニアパームの景観的特徴として「高さ」「姿」が挙げられ、その「ある程度の高さ」「群としてのまとまり」が道路景観を印象的にしている。



橋通西3丁目付近



南方付近

・このまま現在の管理を続けた場合、1車線規制での管理ができなくなるとともに一斉に倒木するリスクもある。

・一方、更新計画がないまま限界に達したパームから更新(植え替え)を行った場合、更新箇所がまばらになり、パームの特徴である「ある程度の高さ」「群としてのまとまり」が失われ地域資源の喪失につながる。

そのため、「ある程度の高さ」「群としてのまとまり」を維持しつつ、**計画的な更新(植え替え)**が必要

(1) 寿命に係る生態情報

①文献等より（出典：園芸植物大辞典2（小学館）より）

- ・「オキナヤシ」と「オキナヤシモドキ」の雑種が植栽されているものと考えられるが、正確な情報は不明。
- ・オキナヤシの日本国内における栽培では、寿命は約60年。
- ・オキナヤシモドキの寿命に関する情報はなし。

②有識者ヒアリング（北川委員長・吉田委員・服部委員）

- 寿命を特定することは困難。（老朽化して折れたりして自然に若い木に淘汰されていると思われる。）
- 鹿児島で切ったものが樹高35m・樹齢100年くらいと推定。（有識者会議での情報：H24年度第2回検討会で吉田委員より。）
- 強風で倒れた例がある。（主として首折れや幹の腐食、傷が原因）
- 根株腐朽菌で根元が腐る場合がある。（外傷も無く、目視では診断が困難）

【枯死木の事例】

■宇佐市役所玄関前のワシントニアパームの幹割れ、幹枯れ

- ・樹齢50～60年位。
- ・強風等による幹折れを危惧し、H21年に伐採。

(2) 樹木診断の内容

●簡易診断

- ・ 樹木医による診断（観察、触診、打診）
- ・ 樹勢、幹、根元、支柱部の状態を診断
- ・ 簡易診断は全てのパームを対象に実施

●詳細診断

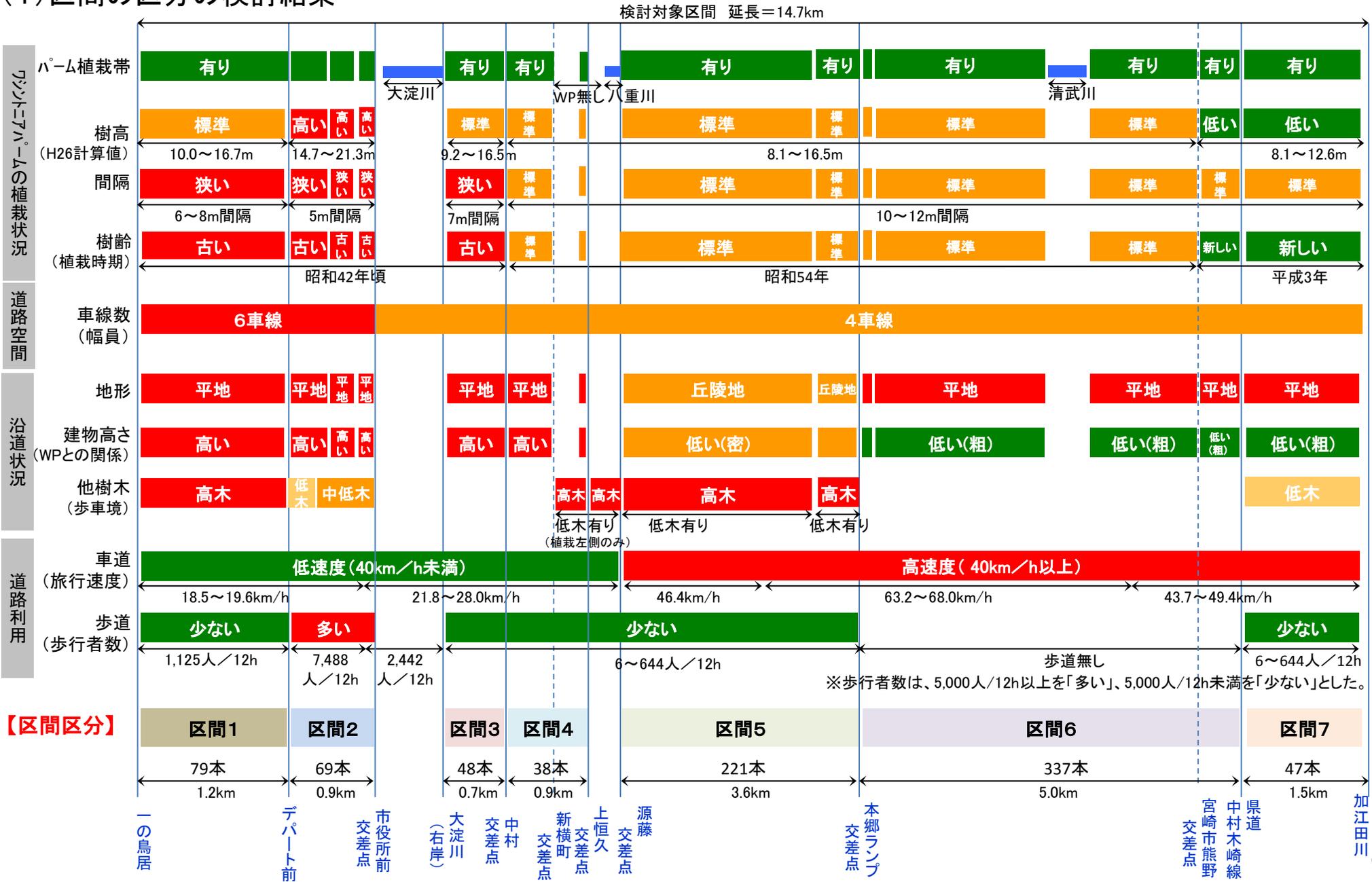
- ・ 簡易診断の結果、より詳細な診断を要するパームを対象に実施
- ・ 診断項目は、以下の9項目について診断
 - ①開口空洞
 - ②腐朽状態
 - ③幹の亀裂
 - ④表面の欠損
 - ⑤幹途中の不定根
 - ⑥表面のはがれ
 - ⑦幹のくびれ
 - ⑧樹体の傾き
 - ⑨支柱の食い込み
- ・ 結果に基づき、必要な対応（薬剤塗布、伐採等）を行う

簡易診断カルテ 1/2					
事務所	宮崎河川国道	調査日		調査者	(所属)
路線名	距離	上	下	中央	緯度: 経度:
樹木番号	樹種	樹状寸法 H(目測) = m, C(実測) = cm			
植栽地盤	<input type="checkbox"/> 植栽例 () m x () m	<input type="checkbox"/> 植栽帯幅 () m	<input type="checkbox"/> その他		
部位	評価項目	評価基準(口欄に/印を記入) ※「表面の異常」及び「異常」とは、亀裂、欠損、腐朽、虫穿孔等を指す。			
		0	1	2	3
葉	樹勢	<input type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 葉色が悪い又は葉が小型化している	<input type="checkbox"/> 葉が全て下向きに黄色化している	<input type="checkbox"/> 葉がほとんどない
			<input type="checkbox"/> 葉の脱落が多い	<input type="checkbox"/> 葉の脱落が少ない	<input type="checkbox"/> 葉の脱落が多い
幹	欠陥	<input type="checkbox"/> 特になし	<input type="checkbox"/> 表面の異常あり(縦幅が幹周長長の1/10~1/3未満又は縦幅(亀裂長)が樹高の1/10未満)	<input type="checkbox"/> 表面の異常あり(縦幅が幹周長長の1/3~2/3未満又は縦幅(亀裂長)が樹高の1/10~2/3未満)	<input type="checkbox"/> 表面の異常あり(縦幅が幹周長長の2/3以上又は縦幅(亀裂長)が樹高の2/3以上)
			<input type="checkbox"/> 空洞あり(縦幅が幹周長長の1/3未満)	<input type="checkbox"/> 空洞あり(縦幅が幹周長長の1/3以上)	<input type="checkbox"/> 空洞あり(縦幅が幹周長長の1/3以上)
			<input type="checkbox"/> 幹上中部の外皮はがれ面に異常がある	<input type="checkbox"/> 幹に横方向の深い亀裂がある	<input type="checkbox"/> 打音異常部位がある
			<input type="checkbox"/> 樹端にくびれた部分がある	<input type="checkbox"/> 幹の途中から不定根が異常に発生している	<input type="checkbox"/> キノコの発生あり
緊急処置を要する項目(口欄に/印を記入)					
支柱	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	処置:	<input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 修繕 <input type="checkbox"/> 再設置		
その他安全管理に関する特記事項 危険な枯倒木、根元の大きな歪み、束縛支柱、害虫の集団発生等緊急処置を要する事項: 記入がある場合は総合評価はEとする					
総合評価	各項目の評価値の中で最も高い値を総合評価とする(A~Eを○で囲む)				
	0	1	2	3~4	E
	A	B	C	D	
	健全	軽微な異常なし	軽度の異常がある	重大な異常がある	危険木
	定期点検(5年後)	経過観察(2年後)	経過観察(1年後)	要詳細診断	処置後、伐採以外は本葉による再評価を実施

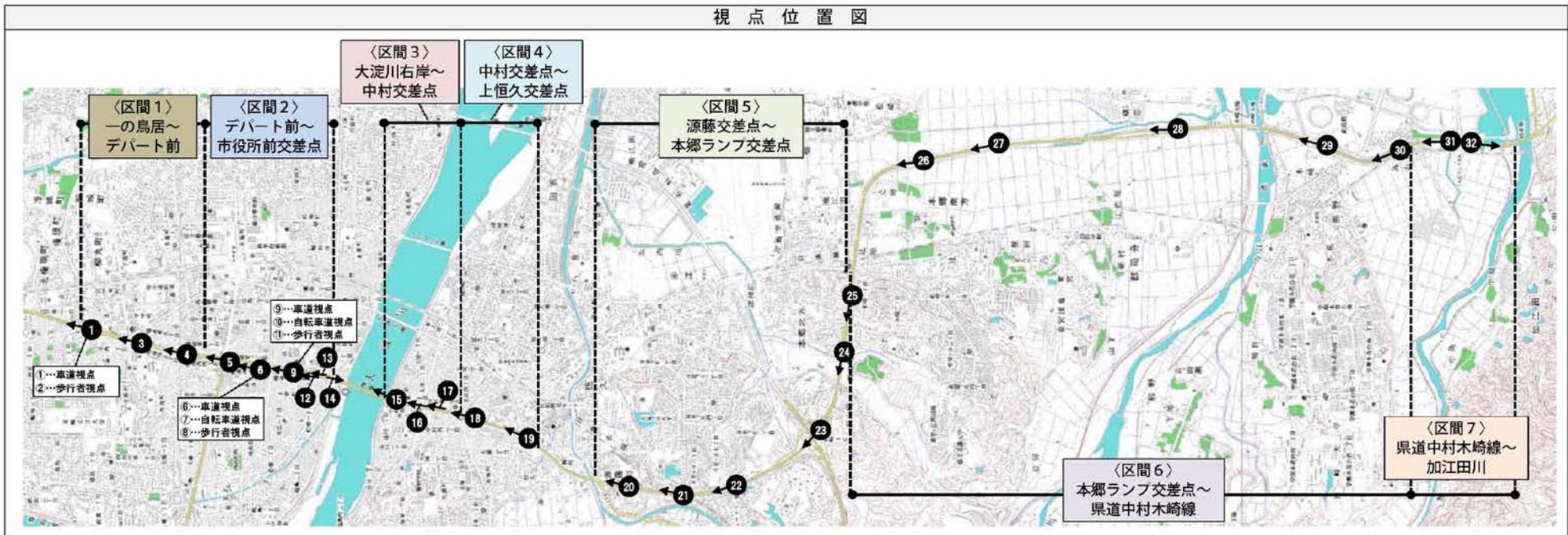


【参考資料⑦】区間区分(第2回検討会資料の抜粋)

(1) 区間の区分の検討結果



(2) 区間毎の代表写真



<p>〈区間1〉 一の鳥居～ デパート前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植栽間隔は狭い。 ・ パームより高い建物が連担。 ・ 歩車境に高木植栽。 ・ アーケード区間がある。 	1	2	3	4
				

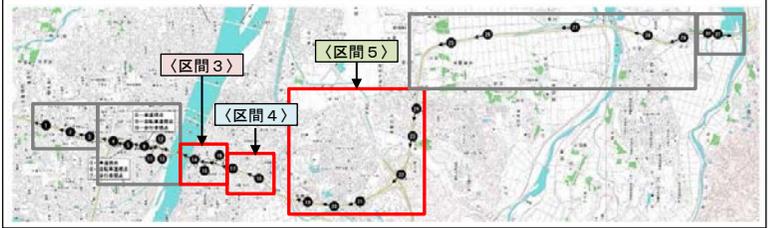
〈区間2〉
デパート前～
市役所前交差点

- ・ 植栽間隔は特に狭い。
- ・ パームより高い建物が連担。
- ・ 歩車境に中低木植栽。
- ・ アーケード区間。
- ・ 人通り多い。

5	6 (車道視点)	7 (自転車道視点)	8 (歩行者視点)
			
9 (車道視点)	10 (自転車道視点)	11 (歩行者視点)	12
			
13	14		
			

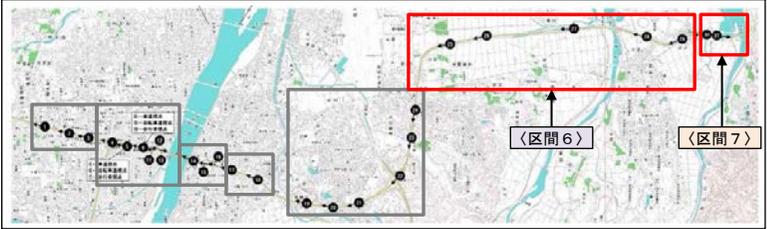
<p>〈区間3〉 大淀川右岸～ 中村交差点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植栽間隔は狭い。 ・ パームより高い建物が連担。 ・ 歩車境に植栽なし。 	15	16	17
			

<p>〈区間4〉 中村交差点～ 上恒久交差点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植栽間隔は標準。 ・ パームより高い建物が存在。 ・ 歩車境に一部高木植栽。 	18	19
		



<p>〈区間5〉 源藤交差点～ 本郷ランプ交差点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 丘陵地 ・ 植栽間隔は標準。 ・ パームより低い建物が広がる。 ・ 歩車境に高木植栽。 	20	21	22	23
				

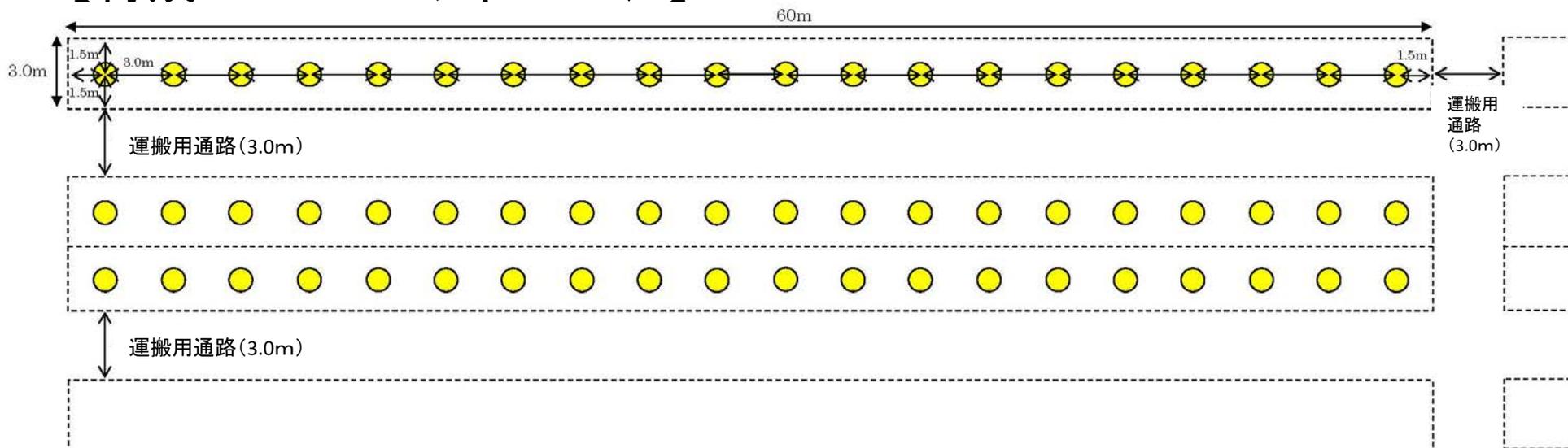
24	25
	

<p>〈区間6〉 本郷ランプ交差点～ 県道中村木崎線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植栽間隔は標準。 ・ 沿道に農地が広がる。 ・ 歩車境に植栽なし。 	26	27	28	29	
	30				
		31	32		
<p>〈区間7〉 県道中村木崎線～ 加江田川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植栽間隔は標準。 ・ パームより低い建物が散在。 ・ 歩車境に低木植栽。 					

1) 圃場整備の基本方針

- ◎更新数量(14本/年)に枯死してしまうことを考慮した数:**20本/年を圃場で育成**する。
- ◎樹高4mに達する育苗期間は15年。
継続して圃場より苗木を調達できるように、**20本/年 × 15年 = 300本**を育成する。
- ◎育成スペースは掘り取りに必要な**植栽間隔3m**を確保し**列植**を基本とする。
- ◎**運搬用通路(幅3m)**を確保する。

【育成スペースのイメージ】



※圃場造成の際は、水はけを良くするよう配慮する。

2) 堀切地区圃場(当面の予定)

圃場候補地:堀切地区の道路管理用地

- ・圃場整備の基本方針に基づき、具体的な育成スペースの検討を行った結果、計300本の育成スペースの確保が可能。
- ・国道220号沿いの植栽帯にはヤマザクラが植えられている。

